

東大和9条の会だより 1周年特集号

この会は思想信条や立場の違いを越えて憲法9条をまもる活動をしています

連絡先 東大和9条の会 東大和市職員組合気付 TEL042-565-0866 メール:hytunion@d1.dion.ne.jp http://higashiyamato9.hp.infoseek.co.jp

憲法第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

結成一周年

9条の会が集い

「東大和9条の会・一周年の集い」が七月二十九日中央公民館で開かれ、二一〇人が参加しました。オープニングは、市内の女性たちのグループ「桜心会」による「よさこいソーラン」の踊りと、高校生グループのア・カペラ（無伴奏合唱）。広がりつつある地域の運動から、桜が丘、上北台、湖畔・狭山の様子が報告されました。続いて、小森陽一氏（東大教授・

九条の会事務局長）が講演。小森氏は、憲法と教育基本法は不可分のものであることを説明。「北東アジアの平和は日本国憲法によって守られてきた。その九条に恩返しをする運動と一緒にやりませんか、と周りの人たちに語りかけていきましよう」と訴えて、講演を締めくくりました。会場では「9条パン」や「9条しおり」などの販売や、四月二十九日におこなわれた憲法フェスタの写真展示もあり、帰りの出口では、参加者が講師を囲んでつぎつぎに握手を交わす光景も見られました。



小森陽一さん



高校生グループ



桜心会

市内のすみずみに地域の会

9条の会を市内のすみずみに―昨年末の呼びかけから十ヶ月余、点から面への広がりをみせています。

今年一月には南街・立野・中央、桜が丘、向原、新堀で、二月には上北台で、地域9条の会が相次いで誕生。七月十六日、呼びかけ人・賛同者を七〇人にして発足した湖畔・狭山9LOVEは十一月には二七〇人を超えました。

地域の会では、思いを語り合ったり映画会をしたり、市内全体で二〇回以上の催しもたれました。被爆や戦争体験をきいた桜が丘では、参加者

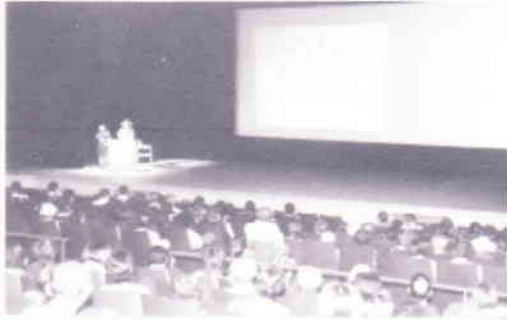
の思いを冊子にしてみました。「憲法9条の思いを若者たちに」―高校生の息子をもつ母親たちの発案で始まった、桜が丘での「憲法ウイーク 青空フェスティバル」。平和広場に若者・親・年配者三〇〇人がつどい、「三世代間協力」を創り上げました。東大和9条の会公開講座は、設立準備を始めた昨年一月から六回を教えました。「9条を持つ日本国憲法」をより深く知って、知らせる原動力になっていきます。これまでに延べ三〇〇人を超える参加があります。

青空フェスタ桜が丘 '06.4.29

撮影：秋元六二さん



9条をまもる心熱く



'05年10月1日 高遠菜穂子さん

よびかけ

今日、2005年10月1日-憲法9条を変えようとする動きが急速にすすむと、わたしたちは、さまざまな思いでハミングホールに集まりました。

戦争を体験され、二度と繰り返してはならないと駆けつけた方。

戦力不保持・戦争放棄をうたった9条こそ、歴史をきりひらく力を持っていると参加された方。

国を守るために自衛隊は必要だが、9条を変えたら戦争の道に踏み出すことになると思われ方。

さまざまな思い、思想信条も立場も違うさまざまな方々が、ただ一つの願いで今日のつどいを支えています。それは「平和が好きだから 戦争はいやだから 憲法9条をまもりたい」という心からの願いです。

共同の輪を、もっともっと大きくひろげ、わたしたちの命と未来を安心して託せる平和な世界を実現しましょう。大切な憲法9条を守りましょう。

2005年10月1日

「平和が好きだから9条」

東大和市民のつどい

創意を生かした

9条グッズのいろいろ

99歳的小林金之助さんと書き初め



アイデアいっぱい

押し花を使っでの「9条しおり」や扇子・うちわのグッズ、岡さん(中央)の字が映える小野田さん(清水)縫製のテント生地ミニのぼり旗など、アイデアいっぱい、運動の輪を広げています。99歳・小林金之助さんは、9条の大切さを書き初めにしました。

この会の活動費は皆様からの募金で成り立っています。運動の趣旨にご理解をいただき、募金への協力をお願いします。

募金先

口座番号: 00150-5-501219

口座名称: 東大和9条の会

平和が好きだから 戦争はいやだから 憲法9条をまもります

2005年1月15日、外はみぞれ混じりのあいにくの天候でしたが、憲法9条をまもろうという熱い気持ちを持った心ある人たちが自主的に集まり、憲法改悪を許さない運動を地域で起こそうということになりました。

当日、出席した方々からは次のような憲法問題への思いが語られました。

・地域の子どもたちにサッカーを指導している。今の憲法には不具合なところもある。しかし、子どもたちがリーガーを目指している姿を見るにつけ、その子どもたちを戦争に駆り立てるようなことはしたくない。「スポーツができることは平和なんだ」ということを実感している。

・今の動きを見てみると本当に心配になってきた。最後は自分や子ども、孫にも関わることである。これまでは何でも自由にものが言えた。しかし、徐々に息苦しくなるようなことが起きている。

'05年7月23日 結成総会



9条のない国に生かぬ想像を

九条を守ることは、今まで通り考え、想像し、続いてきた生活を守ることだ。もつといえ戦後すべての日本人が善くも悪くも個人として選択してきた発言、態度、表現を守ってきたのが、他ならぬ九条だ。それらが守られない国に生かぬことになるかもしれないということをもっと想像して欲しい。九条を意識すること、我々のものとして選ぶことが日本を守ることであり私共は思います。

(狭山・那倉太一 二四歳)

核保有議論をゆるすまじ

「日本の核保有」議論のエスカレートに憤りが広がっています。桜が丘のAさんは、東大和市民在りの被爆された人たちが編まれた『平和への祈り』を手に話されました。

「あの地獄絵や飢えは決して忘れられませんが、『三度ゆるすまじ原爆』の声を世界中の人たちにいつづけること、これこそ私たち日本国民のつとめです」

Aさんは「何も手伝えませんが、原爆の恐ろしさを語り継いでいかなければ」と、東大和9条の会の賛同者になっておられます。

(桜が丘・石橋章吾)

「訓練」が「実践」となるを恐る我がまちにも憲法9条の会

この歌は、昨年十月一日に亡くなった秋山数馬さんの遺詠です。その日は六百人が参加した東和9条の会。市民のつどい。市を守護する一点の光を、大馬さん広げ運動に、数馬さん広げ運動に、人数でさん広げ運動に、人歌人7月雑誌「新日の住民投票勝利の岩」が「一致する要求を大いにし、お互いの感情を尊重し、配慮しながら進めたい」と、山さんがこの所へ、線をひきながら、新たな動きを、連帯に必要ない、と、熱く語りかけます。